

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291200022		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 サンホーム新谷		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷1700番地2		
自己評価作成日	令和4年10月29日	評価結果市町村受理日	令和5年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、生まれ育った地域で利用者の方が自分らしく生活できるようにできる限りの支援を行い、利用者が地域・ご家族との関わりを継続し、充実した生活を送れるよう取り組んでおります。近年新型コロナウイルスの流行で地域の行事の参加が出来ていませんが、施設内での行事やイベントで入居者様に喜んで頂けるようスタッフ一丸となって行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現管理者は前管理者から業務を引き継いで約2年が経過し、介護計画作成担当者と兼務する中で、職員や入居者を支える任務を担いながらも、長期にわたりホームを支えてきた職員が互いにできること・できないことをフォローし、チームワークにより入居者の日常の変化を把握することが入居者への良質なサービスの提供に繋がっている。コロナ禍で外出できないと考えるのではなく、外出するためにどのようなことを行うのかを検討し、外出先の状況を把握した上でドライブや買い物等の支援を実施している。天気の良い日はウッドデッキを利用し、外気浴を行ったり、おやつの時間を楽しむなど入居者の気分転換を図っている。職員は地域住民との交流を大切にし、地域行事には積極的に参加したり、避難訓練時には地元の消防団員が参加するほか、緊急時には近隣住民と連携できるよう取り組んでいる。法人全体として記録の電子化を進めており、法人内の各事業所と情報交換が図れるよう体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 サンホーム新谷

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念が「笑顔・共感・団結」となっており、正面玄関に掲示しています。出勤・ミーティング時など職員は日々、目に入る状況にありケアに反映されていると思います。	ホームの理念「笑顔・共感・団結」の中にある笑顔には入居者と一緒に歌をうたいながら職員も笑顔になったり、入居者の昔話に共感したり、職員と入居者が共にホームでの生活を送れるよう支援に取り組んでいる。ホームは入居者が安心した生活が送れるよう職員全員が団結したホームを目指している。	理念に関して職員は理解はできているが、全職員が理念をもとに日々の支援に繋げることができるよう、例えば理念に沿った年間の個人目標や月毎の目標等を掲げ、目標到達度について管理者・職員がともに振り返るなど理念の共有に繋がる仕組みを導入することで、更なる介護の質の向上に繋げることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民として、積極的に地域の行事(夏祭り・老人会・地域総会等)に参加し、定期的に交流を行い深めていたがコロナウイルスの影響で近年行事は中止となり、ほとんど地域行事に参加できていない。	コロナ禍で以前のような地域との交流はできていないが、運営推進会議の構成委員である地域総代宅に運営推進会議議事録を持参し、ホームの現況を報告すると共に地域の状況を聞き取るほか、地域の民生委員と情報交換を行う等、コロナ禍でも可能な範囲で地域との繋がりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	役場や地域の代表の方々と、機会ある度に地域に貢献したいと申し出て、地域のいきいきサロン(老人会)にてレクレーションを行うことがあり活かしていましたが、近年新型コロナウイルスの流行で出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年では運営推進会議では、毎回、前回の会議以降のサービス内容・ヒヤリ・事故報告等を報告し、ご意見を頂いた分については、職員間で情報を共有しサービスの向上に活かせる様にしていますが、コロナウイルスの流行により運営推進会議に呼ぶことが出来ず、書面で確認してもらいました。	運営推進会議の構成委員は、地域総代、民生委員、行政職員、家族代表である。現在、書面による運営推進会議を実施し、ホームでの入居者の暮らしが分かる写真と共に、行事実施状況や今後の行事予定、ヒヤリハット報告を記載した議事録を委員へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類等の提出の際には、必ず役場へ持参し、質問事項等も出向いて聞く様にしています。又、地区のグループホーム協議会を通して、事業所側の意見も伝えている関係にあります。	運営推進会議の構成委員である行政職員と役場窓口で運営上の不明な点を尋ねたり、介護認定更新申請時に必要な助言を得ている。ホームを管轄する県央保健所の指導を希望し、法人の施設長や関連する他事業所の職員も参加し、手洗い、加湿器の手入れ、掃除・消毒方法・レッドゾーン、イエローゾーン等、コロナ感染予防対策に関する指導を受けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を一切行わないが、当事業所の運営方針の一つでもあります。又、身体拘束適正化委員会を設置し、委員を中心に勉強会等を行い全職員が参加しており、日中の玄関施錠はもちろん、身体拘束は一切行っておりません。	3か月に1回、法人本部で開催する身体拘束適正化対策検討委員会にホームが選任した委員が参加している。議題や委員会で諮った内容は記録として専用のフォルダ内に保存している。記録の電子化を進めており、必要な関係書類を紙ベースに変換し保存するかを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の委員を中心に勉強会を行っている。コロナウイルス流行の為、集合研修ではなく、オンライン研修を行う。職員間で勉強会で学んだことを共有し協力しながら注意を払ったり、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の中に、これらの事業等について勉強している者がいますので、その職員を通して全職員は学ぶことが出来ます。現在は、これらの事業等が必要な方がおられるときには支援できると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には、十分な時間を設け、理解して頂けるまで説明を行っていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全職員が苦情受付担当者になっており、又、意見を入れてもらえる箱を設置しています。苦情が出た際には、運営に反映させる体制を整えています。	入居者や家族の意見は、全職員が受付窓口となることを取り決めている。入居者や家族が申し出た意見等は記録に残し、職員間で情報共有を行っている。重要事項説明書には外部の苦情受付機関を掲載し、入居時に入居者や家族に説明を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の立場からの意見は聞いてもらえる機会があります。必要に応じて、代表者を含めた全職員集まる機会もあります。	月1回の職員会議では、入居者支援の効率を上げるための提案や業務の見直し等、職員から活発に意見が出され、実践に繋がっている。最近では、職員からフロアの畳部屋の畳が傷んでいるとの意見が出され、畳替えを行った。職員は個人的な相談を管理者に伝えることができ、必要に応じて管理者を通して法人本部に改善を求めることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場内外の勉強会や研修会への参加の自主性や、提出書類等の速やかさを基本給へ反映させています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会は、その職員に合わせて数多く設けています。又、介護の面だけの研修ではなく、メンタル面の研修の機会も設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で研修会を開催し同業者との交流を行っており、サービスの質や職員のスキルの向上に繋がっていると思います。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日までの本人の状態、環境等によって本人から直接話を聞くことが困難な時もありますが、可能な限り、時間を取り本人に会えるよう努めたりとその時出来る方法での関係作りに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日までに、家族と話しをする機会を設け、出来る限り家族の要望等に応じ努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族の必要なサービスを当事業所のみと断定せず、相談内容に応じて専門的な立場での助言等をその都度させて頂いていると思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の自立を目的として、確実な自立支援の介護に繋げていきたいと思っており、介護支援時に限らず共感し関係を深めていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間は緊急時以外職員の人数により16時以前でお願いしています。電話での連絡の制限は設けていません。行事は家族へ報告しています。家族と共に本人様の意向・その都度必要なケア等の報告・話し合いを設け関係を築けていると思います。近年はコロナウイルス対策として玄関でのパーテーション越し面会や窓越し面会で対応することが多かったです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望を、当事業所で支援できる限り実現できていると思います。	入居時に本人や家族から以前の生活歴を聞き取って把握している。また、職員や入居者同士の日頃の会話によるコミュニケーションを通じて、入居者の希望や新たに知り得た情報を職員間で共有し、できる限り実現できるよう努めている。コロナ禍のため馴染みの関係継続の支援が困難な状況であるが、感染対策を講じて窓越しで面会するなど可能な範囲で支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は、日によって違いますが、一人ひとりの状態を把握しその日に適した利用者同士の関係を実現できていると思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了した御家族と、電話等で近況報告をしたり、可能な限り本人に会いに行っています。又、永眠された利用者の方には、通夜、葬儀には必ず参列しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方を大事にして、入居前や会話の中で希望を聞いたり、出来る限り本人・家族の要望に応じることが出来るよう努めています。	入居者の生活歴等の情報を参考にしながら、職員が日々の入居者との会話の中で本人の思いや意向を聞き、記録に残している。意向の把握が困難な入居者には、日頃の会話の中で発した言葉や表情から汲み取り、また、家族と窓越しに面会した時や電話により意向を聞き、入居者や家族の思いや意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や面会時、電話等で情報収集を行い、当事業所での生活にも反映させていると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的な職員間の申し送りや申し送りノートを活用・共有し現状把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人や家族の希望、意見を聞いて、介護計画を作成しています。計画作成担当者を中心に、全職員のみでの現状に即した介護計画になっていると思います。	介護計画の見直し時に本人や家族の意向を聞き、サービス担当者会議にて支援内容を確認している。介護計画作成には介護計画作成担当者が中心となり、更に、職員が確認作業を行い、介護計画作成までの一連の流れは職員全体が関わりを持って作成している。必要に応じて目標の継続または変更等を検討後、入居者本人及び家族へ介護計画の内容を打診し、現状に即した介護計画の作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的に見直しをケアプラン会議にて本人・御家族・職員の意見を取り入れ見直しにも活かしていると思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、個々のニーズに柔軟な支援を出来る体制を常にとっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源に関しては把握できていますので、必要なときに本人の支援を出来ると思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じた、かかりつけ医にて受診、または本人の状態によっては往診をお願いしたりと、支援をしています。	医療の受診は、入居後も在宅生活時からのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。他科への受診も職員が同行支援している。歯科は月1回、訪問診療を受けることができる。受診時には入居者の日頃のバイタル、食事摂取量の記録を持参している。受診している医療機関以外へ受診を希望した場合は、主治医に紹介状の記載を依頼する等、入居者や家族の希望に応じて支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はいませんが、利用者のかかりつけ医や、看護師とも親しくさせて頂いておりますので、相談しやすい環境だと思えます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、職員は定期的に病院に行き、看護師に現在の状態を聞いたりしています。退院の前には、特に情報収集を病院や家族と多くしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された利用者の方には、すでに御家族、かかりつけ医、事業所と話し合いをしており、事業所の「出来ないこと」は把握して頂いています。かかりつけ医、御家族にも協力を得ながら、方針を共有出来ています。	ホームは、入居者の介護度が上がった場合を目途に看取り期の判断を行い、かかりつけ医との連携や、家族へ今後の希望を聞き、ホームでできること、できないことを説明している。ホームで対応が困難となった場合は、同法人の特別養護老人ホームや医療機関へ繋ぐ支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の勉強会を行い、マニュアルも作成しています。また、職員のほとんどが消防局主催の「AED講習」に参加しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	自然災害、火災等の対応マニュアルを作成し、防火管理者を中心に避難訓練も定期的に行っています。また、緊急時には、近隣の方にも協力を得られる様に体制をとっています。	コロナ禍で消防署立会いの避難訓練実施は行っていないが、昼間・夜間想定避難訓練や自然災害想定自主避難訓練を行っている。車椅子に座ったり、歩行器を使用する入居者が参加している様子を撮った写真を添付し、訓練概要や反省点等を記載した報告書を消防署に提出している。全職員は消火器操作の訓練を受けた経験があり、初期消火ができる技能を身に付けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	どのような場面でも、プライバシー等には十分配慮したいと思っています。	現在、コロナ禍で職員が外部研修を受けることはできていないが、法人が実施する委員会の研修やリモート研修を受けることができる。尚、前年度までは法人全体で接遇委員会を実施し、ホームの担当者が参加してホームに持ち帰り、全職員に研修内容の報告を行っていたが、今年度は未開催である。	接遇研修など、特に参加ができていない研修に関し、例えば次年度に向け具体的に研修(勉強会)計画を立案するなど、今後の具体的な取り組みに期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的会話の中で本人の思いを出来る限りくみ取り、自己決定出来る様に働きかけていると思います。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の全ての利用者の希望に添える様に努めていますが、その日の利用者の状態、職員の勤務状態等によって、その日に希望に添えない時もあります。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じて支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の準備や食事、片づけを出来る利用者に声かけを行い1人でも多くの方と職員と一緒にを行っています。	ホームでは、入居者との関わりの時間を多く確保できるよう調理を外部の業者へ委託している。入居者の中には食事の準備や後片付けを行う等、入居者がやりがいを持ちながら食事を楽しめる支援に繋げている。クリスマスや誕生日には職員の手作りケーキを提供したり、2～3か月に1回、法人内の管理栄養士の指導の下で行事食を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や栄養状態、水分量等は把握出来ていますので、不足時にはいつでも補える様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの利用者の毎食後の口腔ケアは出来ていると思います。また極力本人に出来るところまではしていただき磨き足りない部分等職員が行ったりし支援させて頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用やスキントラブルを減らす為、入居者様1人1人にあたりハビリパンツや尿取りパットで対応しています。時には、一人一人の排泄のタイミングを逃してしまう時があり、トイレでの排泄が出来ない事もあります。	職員は、入居者の排泄状況について記録を残すと共に、排泄の間隔を把握して個別のトイレ誘導や声かけの支援を行っている。夜間帯にパッド交換し覚醒して眠れない入居者の場合には、介護用品業者に相談し、パッドの吸水量と排泄量に応じたサイズにするなど、個別の対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響は理解していますので、飲食物や運動等での予防に取り組んでいます。改善見られない場合はかかりつけ医に相談し薬を処方して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望される日に合わせて入浴できるようにしています。また、間隔が開いておられる方は、随時声かけを行っております。	入浴日は、入居者によって曜日を決めているが、入浴拒否や体調不良等で入浴を実施できなかった場合はいつでも入浴できる準備を行っている。湯温や入浴の順番に拘る入居者には柔軟に対応している。個別に対応することで入居者が楽しく気持ちよく入浴できる支援を提供している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により居室へ誘導し休息をしていただいたり、居室以外でも、利用者それぞれが休息できる場所を確保されています。安心して、気持ちよく休息等を出来られていると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更時には、かかりつけ医や薬剤師等から説明を受け、お薬の説明書等で確認も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所内外で、一人一人に合わせた支援をしていると思います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響によりほとんど外出出来ていませんが、人数が減少した時に本部と相談した上で計画を立てています。	コロナ禍の影響で以前のように外出を支援することが困難ではあるが、感染防止対策を講じた上で今年は町内の公園にドライブに出かけ、入居者の気分転換を図ることができた。日常生活の中では、天候や気温に配慮し、ホームのウッドデッキに出ておやつを楽しんだり、職員と一緒に洗濯を干す等、入居者が外気浴し気分転換が図れるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金のトラブル防止のため、金庫で預かっていますが、外出時等には必要に応じて利用者の方に支払いをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙でのやり取りに制限は設けていませんので、希望がある時にはいつでも行って頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光がないように日常的に配慮出来ていると思います。また、各室内温度にも気を配り、共有の空間には雑貨や生花等で居心地良く過ごせる様にしていると思います。	管理者は、清掃チェック表を作成し、勤務形態によって担当を決め、共用空間やトイレ等の清掃実施と確認を行っている。清掃や洗濯等専門のパート職員を採用しており、今後、管理者は空調等の清掃もチェック表に追加し、更に清潔で心地よい空間作りに努める意向である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも、一人一人の場所が確保されています。思い思いに過ごされていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族へも相談をしたりと働きかけをし、本人の使い慣れた物等を持って来て頂き、本人が居心地良く過ごせる居室になってきていると思います。	ホーム内にはフローリングと畳の居室があり、どちらも個性のある居室作りができています。居室への持ち込み品については、書面で明確にしていなかった為、今後ホーム内で検討し、入居時の持ち込み品に関する確認方法を検討する予定である。	ポータブルトイレを配置している居室が窺える。昼間、居室に置いているポータブルトイレは、入居者にとって居心地良く過ごせる居室の為に、本人の使い勝手や動線を考慮した上で、必要に応じて目隠し等を検討することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも事業所内を自由に走行できる幅が有り、必要な箇所には手摺や滑り止め付きの踏み台、各居室入り口には本人(御家族)記載の表札(名前プレート)を付けています。		